



研修委員会イベント報告 『集中力の高め方』～東大・甲子園・日本一へ導いたメンタル強化法～



参加者は小学生から一般まで様々な年代でしたが、最後まで集中力を切らさず聴講する姿が見られました。特にスポーツ少年団の子どもたちや中学の運動部所属の生徒たちには興味を引いたようで、実演の一つとして行われたテニスボール積みでは全員が没頭し、成功したときには嬉しそうな表情も見られました。

令和4年12月10日(土)熊野市防災公園に於いて、体験型講演会を行いました。前回に引き続き川谷潤太先生を講師にお招きし、集中力の高め方を主テーマとして講演と実演を交えてお話し頂きました。



参加者からは「すごく面白かった」「非常に興味深い内容だった」との言葉を頂き、少年野球チームの熊野リトルタイガースでは早速翌日の練習時に靴やグラブなどの用具が綺麗に並べられていたとの事です。

川谷先生には参加者の年齢層が幅広い状況にもかかわらず、参加者の反応など状況に応じてうまく対応して頂き、子どもたちも飽きることなく取り組んでいたのが印象的でした。

また、前回を上回る150名を超える沢山の方にご参加・ご来場頂いた事、感染症対策にもご協力して頂きありがとうございました。

研修委員長 濑古忠史



家庭幼児教育委員会のイベント報告 「あの日を忘れない 紀伊半島大水害から11年」

第1弾イベントは、「紀宝町わくわくフェスティバル」令和4年10月23日に開催しました。子どもたちに、モルック体験(フィンランドの競技)という、新しい遊びに挑戦し100名以上の参加者にて大好評でした。親子で共同作業“箸置き作り”も真剣に取り組む姿と笑顔が見れて盛況でした。

家庭・幼児教育委員会は、昨年「地震について学ぼう」を企画しながら、コロナ禍で苦渋の中止を決断。この地域に住むすべての人々を対象にした、防災意識を高めるイベント再開催にむけて半年間調整し、実施を迎えました。11年前の紀伊半島大水害をモチーフに、クロスロードゲームで、子供たち・保護者・教職員が一丸となって、命の大切さを守る時間を共有する一大イベントを計画しました。



講師の速水敏人 救急救命士
参加者が、幼児から中学生まで多岐にわたり、3時間を超えるプログラムを、どのように進めていくのか? 楽しんで命の尊さを学んでもらえるか?

講師の速水救急救命士と、紀南救急勉強会の医療スタッフ、医療関係を目指す近大付属新宮高等学校の学生と、紀南PTA連の本部役員が、事前研修会でファシリテートを学びシミュレーションを重ねてきた成果を発表しました。

紀宝町役場様からは、災害パネルの展示等の後援も頂き、本当に素晴らしいイベント開催ができたこと、地方紙や、初のZTVの取材も含め、応援頂き感謝申し上げます。

紀南PTA連は、少子化により、希薄となった、子どもたちと地域をつなぐ“絆”と“志”を大切にしています。今後も皆様のご協力をお願い致します。

家庭・幼児教育委員長 大倉正宗

会長あいさつ

会員の皆様、日頃よりPTA活動にご理解・ご協力を頂き誠にありがとうございます。

令和4年度紀南PTA連合会会長を務めさせて頂いております、野地本隆と申します。

さて、本年度のテーマは、「SDGsと共に生きる未来への”志”」

サブテーマは「自分のすべき事・他人の為にできる事」と致しました。

PTAの目的は、子どもたちにより良い成長の場を作り上げ、健全に育成することにあると思います。また、子供たちを後押しする応援団として、親が学校・地域と連携を取り、どう対応するかを学ぶ事もあると思います。



会長：野地本 隆

PTA活動については、決して強制できるものではありません。それぞれの考えもおありかと思います。しかし、子どもたちにより安全で楽しい環境をつくるあげたいという思いは、私たち親の共通の願いではないでしょうか。

紀南PTA連合会では、今年度も研修会や広報活動など様々な活動を行ってまいりました。準備や運営にあたりましては、役員の方々や先生にご協力をして頂き、無事終えることができ、本当に感謝しております。

PTA役員の活動は、私にとっても良い経験になりました。ありがとうございました。

最後になりましたが、来年度のさらなる発展を期待しまして、年度最後の御挨拶とさせて頂きます。

御浜町立 阿田和小学校



学校から紀南病院裏手の避難場所までは、約1kmの道のりです。学校を出て、線路沿いを600m程走ります。紀南病院下にさしかかると、それまでの緩やかだった坂道が一気に急な傾きになります。紀南病院の玄関で海拔27.6mです。さらに病院の5階ほどの高さまで駆け上ります。

子どもたちは、いざというときに自分の命を守るために、真剣に、一生懸命に取り組みました。一緒に参加して頂いた保護者の皆様にも子どもたちののんびりした姿を見て頂けたと思いますし、よい刺激を受け取ってもらったと思います。

これだけの避難経路を走り切るには体力が身についてないといけません。そこで、マラソン大会が阿田和小学校の12月の恒例行事となっております。

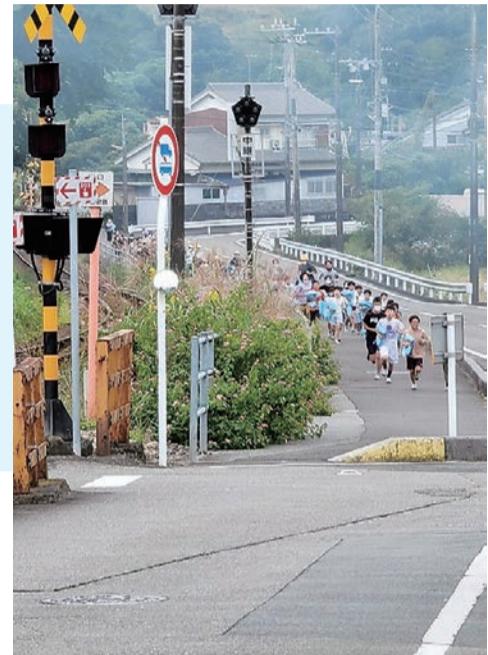
大会本番に向けて持久力を高め、それが命を守る力となるわけですが、普段、外遊びが盛んで活発に動き回っているのも、阿田和小の子どもたちのとてもいいところで、体力増進につながっていると思っています。



高台避難訓練

～こどもたちの体力づくり～

阿田和小学校の避難訓練といえば、「紀南病院の上まで走って避難している」と広く認識を頂いているのではないかと思いますが、今年度は6月に続いて2回目の「高台避難訓練」を地域の方々のご協力のもと、10月22日(土)に行いました。今回は、防災意識を高めていただく機会になればと、保護者の方にも参加を募ったところ多数の方々に希望を寄せて頂きました。



熊野市立 新鹿小中学校

学校教育目標：つなぐ～認めあい、高めあい、励ましあえる学校～

- ①子どもと子どもがつながる
- ②教職員同士がつながる
- ③地域と子どもがつながる

新鹿小中学校では、この3点を校舎が併設されている利点を活かし教育活動を進めています

クリーンアップ新鹿浜

「新鹿の海岸をいつまでもきれいに」と中学校生徒会が呼びかけ、小学生とともに、毎年新鹿浜のゴミ拾いを実施しています。
(詳細はSDGsのコーナーをご覧下さい)



保小中合同運動会



3年前までは、地域の方たちと一緒に、新鹿地区運動会として実施していましたが、感染拡大防止のため、今年も、小学校、中学校、保育所の演技(競技)のみとして実施しました。

それぞれが力を出し切ることをテーマに、創作ダンスや各競技の練習に取り組んできました。小中合同でおこなう「ソーラン」の練習では、中学生が小学生を指導する場面もありました。

事前には、子ども・教職員だけでは大変な環境整備作業(学校周辺の草刈りや運動場の草引きなど)を地域の方々がして下さいました。

新鹿小中文化祭

中学生は、16年続いている手話劇に取り組みました。(詳細はSDGsコーナーで)
小学生は、「学校たんけんたい」「新鹿小学校調査隊」「私たちの町に昔から伝わっているもの」「歌・合奏」を発表しました。

総合的な学習の時間や生活科の授業で、1学期から少しづつ取り組みました。
当日は、パワーポイントも使って分かりやすく発表することができました。



中学生による読み聞かせ



年2回、中学生の図書広報委員会が小学生に読み聞かせを行っています。

2学期は「ゆきあらし」「ねこガム」「雪太郎や~い」を紹介しました。

おじいさん、おばあさんのところを2人で分担して劇仕立てのようにして読むなど、小学生が興味を持てるように工夫していました。

小学生はとても楽しみにしていて、いつもは給食を食べるのに時間がかかる子も、急いで食べて、会場に向かう姿が見られました。



寄せられた活動行事をご紹介します

熊野市立 井戸小学校

「愛の一聲」

みんなが元気になる街頭指導を



子どもたちが楽しみにしているPTA行事の夏祭りについて紹介する予定だったのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止により今年度も中止となってしまったので、日頃のPTAの取組である街頭指導について紹介します。

井戸小学校では「愛の一聲」と題して、子どもたちが安全に元気に登校できるよう月に2回当番制で、朝の見守り・声かけを行っています。

昨年度、当番用の交通安全の旗を子どもたちが持ち帰りやすいようにリニューアルしました。



地域の方も毎月1のつく日に見守り・声かけをしてくれています。これからも子どもたちを危険から守りながら、子どもも大人もみんなが元気になる取組が広がっていけばいいと思います。

「愛の一聲」…よいネーミングだと思いませんか。

「おはよう」

「いってらっしゃい」

「いってきます」

朝の愛のある一声は、子どもも大人も元気になり、やる気が出るものですね。



旗を縮めて収納できるよう伸縮できる【突っ張り棒】を使用して職員が手作りしました。

特集 記事

学校の先生はどんなお仕事？

大変な事？ やりがい 知ってますか！

前期は学校クイズ、今期は 先生の姿をお届けします

先生の仕事のうち授業が占める割合は、小学校の先生で約40%・中学校の先生で約33%だともいわれています。しかし、授業数をもとに先生の人数が決められているため、各学校には基本的に授業する時数+αの分しか先生が割りふられていない状況です。そのため勤務時間内に仕事が終わらない先生がたくさんいます。

授業以外の仕事はどうしても勤務時間終了後になってしまることが多いのです。

また、ほとんどの先生は、子どもと向きあう時間を優先するあまり、昼休みをとっています。このあたりが、「先生の働く環境は厳しい」と言われる理由でしょうか。

本来の勤務時間はたとえば8時15分～16時45分で（昼休みは45分間とれることになっている）合計7時間45分働くことになっていますが、この通りに働いている先生はかなり少数派です。

では、なぜこんなに過酷な環境にもかかわらず、たくさんの先生たちが教師を続けているのでしょうか？ それはやはり、先生という職業にはとても大きな魅力があるからです。

先生たちは、保護者よりも子どもと長い時間を過ごしています。つまり、子ども成長の瞬間に目撃する確率は、保護者よりも高いということです！

この感動は先生たちにとって大変なモチベーションになります。

がんばればがんばるほど、子どもの成長に会えるチャンスが増える！

「子どものためなら何時間でも休まず働いてしまう」先生はとても多いのです。

でも、それで体の調子を崩してしまう先生もたくさんいます。

先生たちは国に「法律を改正して先生の数を増やしてほしい」と要望してきましたが、ほとんど増えませんでした。最近になって、保護者や一般の方が声を挙げてくれるようになって、少しずつ雲行きが変わってきています。保護者の力は絶大です。

アンケート結果によれば、「仕事内容に合わせてもっと給料を上げてくれ」と考えている先生は少数派です。一番多い意見は「法律が変わって学校にいる先生の数が増えれば、一人あたりの授業数が減り、空いた時間でもっと子どもたちと向きあう時間が増えるのに」です。

紀南地域の先生たちは、これからも子どもたちのためにがんばっていきます。

どうかみなさん、この「愛すべき先生たち」を、これからも応援して下さい！

先生たちの残業代はどうなっているの？

教員の給料はとても特殊で給特法の関係で働く時間が何時間でも、基本給の4%が上乗せされるしくみになっています。

【給特法】基本給に+4%を支給するかわりに残業代はつかない

例えば 基本給25万円の場合 +1万円（基本給の4%）→合計26万円

例えば 基本給35万円の場合 +1万4千円（基本給の4%）→合計36万4千円

世の中にはこれを「定額働き放題」などと揶揄（やゆ）する人もいますが、一人の先生が1時間の授業をするために、様々な時間が必要です。



授業のためにどんな準備をしているの？

①教科書や資料を読み込み、研究する時間

②それを授業のなかで何をどの順番で教えるか、

どこに重点を置いて教えるかを計画する時間

③その授業で使うプリントや教材（ラミネートした写真など）を作成する時間

④その授業がうまくいきかどうかをほかの先生に見てもらう時間

これらの準備時間を、単元ごとに一年間をとおして行っています。

また、経験の少ない先生ほどこの時間は長くなる傾向にあります。

一人の先生の一日の持ち時間はだいたい4～6時間ですから、

たとえば一日に5時間の授業をする先生は、(①+②+③+④) × 5という、とんでもない時間をかけて準備をしていることになります。

授業の他にはどんな仕事をしているの？

①子供の悩みを聞いたり子供同士のトラブルに関して双方の話を聞く時間

それを保護者に連絡する時間

②宿題を見たり、テストを採点したりする時間

③連絡帳を集めてチェックしたり、メッセージを書いたりする時間

④国や教育委員会に指定・依頼された研修を受ける時間

⑤気になる子どもの家を訪問する時間

気になる子どもの様子についてほかの先生と情報を共有する時間

相談に来てくれた保護者の話を聞く時間

⑥仲間の授業を見学して勉強する時間

⑦各種の計画書や報告書を作成する時間

⑧部活動の指導をする時間

などなど…



紀南地域高等学校活性化推進協議会 報告

令和4年度後期は、第3回11月8日開催、第4回12月13日開催、残すは最終会議となりました。いよいよ方針検討の佳境に入っています。この地域には、重要な局面です。9月に実施された、アンケートにより、以下の3案の方向性を議論。活動報告致します。

【想定の3案が提示され、アンケート集計結果に基づく検討とされた】

- ①案：統合 5学級規模
- ②案：2校舎制 4学級+1学級
- ③案：2校舎制 3学級+2学級



9月実施のアンケート対象者は、中学2、3年生と保護者による限定された集計となったことで、紀南P連としては、アンケート範囲の修正依頼を提出したが、却下された。紀南P連では、今後の進捗を見据えて、小学生高学年の保護者の意見も大事であると主張。

アンケート集計では、統合案を支援するような回答であったが、母数を考えると、2校分離案に落ち着く様子となる。②③案での学級編成が、今後の焦点となる様相です。

木本高校：学力アップ垂直志向
統合により進路志向面積の拡大を目指す
紀南高校：就職アップ水平志向

紀南P連は、現状推移する学生の数だけで議論すべきではなく、地域にとって本当に必要な学校をつくることを一貫して発言してきました。少々形は変わりましたが、2校を残すという当初の目標を達成したと考えます。

地域で本当に必要な学校の形を考えていくことが大切とし、小さな意見でも、大きく皆様に取り上げて検討頂ける土台形成を重要に考え行動していきます。

今後も、将来の皆様のお子様方が、行きたいと願う高等学校策定に向けた取組みに是非参加して、紀南P連進路研究委員会と共に、更に皆様の声をつなぐ支援をお願い申し上げます。



SDGs 入鹿小学校・入鹿中学校の活動紹介

2022年度の活動として、入鹿小学校・入鹿中学校の親子ごみ拾い活動を紹介します

紀和町青少年育成協議会が、入鹿小・入鹿中の両校に声掛けして地域のみなさんと活動を続けています。

児童生徒・保護者が、地域の皆様と共に清掃活動することで、きれいなまちづくりを意識することができます。



また、児童生徒が地域の大人から褒められる機会ができ、それが子どもたちの自尊感情を育成することにもつながります。

今後も入鹿小・入鹿中学校と保護者の皆様、地域の皆様との繋がりを大切にしていきたいとお伺い致しました。



コロナ禍のため2021、2022年度は規模を縮小して実施したため、写真は数年前の様子です。ご了承下さい。

SDGs 新鹿小中学校の活動紹介



クリーンアップ新鹿浜

「新鹿の海岸をいつまでもきれいに」と中学校生徒会が呼びかけ、小学生とともに、毎年新鹿浜のゴミ拾いをしています。

当日はとても暑い日になったので、熱中症予防のため、新鹿浜から浜周辺の松林に場所を変更して、ゴミ拾いをしました。

縦割り班に分かれ、中学生が中心となり、全員で浜をきれいにすることができます。新鹿観光協会の方からお礼の言葉も頂き、子どもたちは地域に貢献できた喜びを感じているようでした。



中学生による手話劇



2022年11月13日におこなわれた新鹿小中学校文化祭において、中学生が手話劇を発表致しました。その様子を、写真とともに紹介致します。

この手話劇は、今年で16年目を迎えました。シナリオを手話に起こし練習していく中で、地域の手話サークルの方からご指導を頂いています。

先輩から受け継いできた活動に取り組む中で、子どもたちは全ての人の不平等のなくして（SDGs 10）楽しめる時間や空間を創っていくことの大切さを学んできました。

今年のお題は“きんたろう”でした。発表を終えた子どもたちの表情は、“やりきった”という思いであふれています。

今後も新鹿小中学校と保護者の皆様、地域の皆様との繋がりを大切にしていきたいとお伺い致しました。



きんたろうの手話劇



手話指導の先生



見て頂いて、ありがとうございます

前期広報誌 学校パネルクイズ26 解答&当選者発表！



また挑戦しよう！

- ⑯⑯
- ⑮
- ⑧⑪
- ⑯⑨
- ⑯⑯



解答方法

地図の数字の場所に
解答らんから、
学校のあたまについて
いるアルファベットを
あてはめると
答えがみえてくるよ！
少しむずかしかったかな？

O → お さ な い
H A → は し ら な い
S I → し ゃ べ ら な い
M O → も ど ら な い

たくさんのご応募、ご解答ありがとうございました！
全問正解当選者 7名（敬称略）※広報誌配布時、学校経由で景品配布致します

御浜小学校 赤阪 杏（小4）	御浜小学校 中尾祥子（保護者）
鶴殿小学校 井上琴音（小6）	阿田和小学校 高橋稚明（保護者）
新鹿中学校 高垣彩衣（中2）	木本小学校 和田 遼（教職員）
有馬中学校 濱中 碧（中3）	

